



清 泉

令和7年11月27日
昭島市立清泉中学校
校長 佐藤 晴美

昭島市立清泉中学校 〒196-0024 昭島市宮沢町1-9-1
電話042-541-0762 FAX042-541-6869 <http://www.city.akishima.ed.jp/~seisen/>

「多様な背景を持つ人々が多様な幸せを追求できる社会」(内閣府統合イノベーション戦略推進会議決定)

清泉中学校の生徒たちは自分たちのよさを発揮しています。職場体験では初めての社会経験ですので、当然課題や失敗もありましたが、それ以上に「笑顔で、元気なあいさつをしていてよかった」「仕事に、自ら、積極的に関わっていた」「自分から質問をしていた」「とにかく一生懸命だった」など、緊張の中でもよく頑張っていたとのお声をいただきました。また、中神小学校の運動会のボランティアや昭島市総合防災訓練・清泉中学校避難所運営訓練など、地域の活動にも多くの生徒が、笑顔でどんどん関わり、そして関係者や地域の方々との会話を楽しんでいました。言葉や表情を通じて互いのよさや強みを寄り添わせながら、素敵な空間(=社会)を構築しているように見えました。

そのような中、さらにうれしいことがありました。本校のボランティア部が訪問をしている福祉施設での様子を見た方が、その時の生徒の取組をアニメ化し、動画を作成してくださいました。その映像に流れる音楽も本校の生徒の考えを基にしたものです。映像とともに、とても素敵なかつらうれしいメッセージが添えられており、生徒の姿と相まって涙が流れてきました。今後、この映像を活用した授業を全クラスで行います。感じたこと、思ったことを、生徒、教師の垣根なく、対話したいと思っています。

この映像を保護者・地域の方にも見ていただけたらうれしいです。約3分間の映像ですので、3学期の学校公開の日や清泉祭の日などに流せたらと考えています。



さて、生成AIとの共生・協働の時代が訪れています。生成AIは教育の分野にも活用が始まっています。内閣府の会議決定を踏まえ、文部科学省や教育委員会からもガイドライン等が示され、その中に次のような文章があります。

「AIは、人々の能力を活用し、**多様な人々の幸せの追求**を可能とするために開発され、社会に展開され、活用されるべきであるという『人間中心の原則』」と記されています。また、「生成AIの出力結果は最適解とは限らないこと、真偽や適切性を**児童生徒が判断できる**ように教師が支援していくこと」、さらには「適切な課題設定と生成AIへの**指示文(プロンプト)作成**は**生徒の質問力・対話力の向上につながる**可能性が大きい」とされています。要するに私たちはAIに使われるのではなく使いこなす立場であり、私たちが思考、判断し、表現していくことに他ならないのです。そしてそこには『言葉』が存在するのです。

ここでいう「多様な人々の幸せ」を追求するために私たちは何ができるのでしょうか。このことは決してAIが考えることではなく、間違いなく私たちが考えることです。そして人と人との間で『言葉』(質問や対話)を介して関わりをもちながら追求できるのではないかと、今、考えています。

プレイタイム

「心の豊かさってなんだ?」と鬼が問いかけるCMがあります。私の家族が「CMのバージョンが進んで鬼の牙や角が短くなってない?」と私に質問してきました。私はその違いを認識していませんが確かに雰囲気は変わったと感じます。

最初のころ、お地蔵さんをきれいにしているおばあさんに「何している?」と鬼が質問。おばあさんは「ここがあらわれるんだ、心の豊かさ大事!」とまんじゅうを渡す。次は少女と出会い「心の豊かさってなんだ」と聞くと笑われて「とりあえず笑おうか」と言われ、鬼が笑うと「できるじゃん」と褒められる。さらに2人組に会い同じ質問をする。2人は「分け合うこと」と答える。鬼は「分け合うと減るだろう」と質問しますが「うれしいが増える」と2人は答える。そしてバスの運転手は「感謝されることかな?感謝されるうれしいから」と答えます。そして鬼は「ありがとうございます」とお礼を伝えるのです。私は改めて「人は人の中で成長していく」そう感じたのです。音声言語だけではなく表情という非言語も通して……。このCMを考えた影山健太さんと大平崇依さんはこのように語っています。「『心の豊かさ』って時代や人々によって変わっていく、抽象的なもので、定義するのが難しい。皆様と一緒に育んでいきたいものなので『これからの未来、どんなことが心の豊かさになっていくんだろう』と、まずは自分に、誰かに、『問う』ことから始めてみることが、豊かな社会を実現するための出発点になると考えたのです」とのことです。